

長野日報

Nagano Nippo

ご購入ありがとうございます

10月24日 (月)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)

©長野日報社2022

駒ヶ根青年会議所(JC)は23日、「SDGsパーク」を駒ヶ根市駒ヶ根高原の家族旅行村で開いた。市内の学校に通う高校生とゲストのトークセッション「SDGsで描く未来の伊南」竹の間伐材を使った工

作、地元産食材を味わい地産地消を学ぶマルシェなどを実施。家族連れらが訪れ、楽しみながらSDGsについて考える機会にした。

目玉企画のトークセッションでは、駒ヶ根工業高校から1人、赤穂高校から2人、SDGsに取り組むタレントでお笑いコンビ「次長課長」の河本準

伊南の課題考える

一さんが出演。上伊那地方南部(伊南)の課題を高校生目線で挙げ、解決

への取り組みを語り合った。

駒ヶ根工3年の橋爪温耶さんは、伊南で学校生活を送る中で不便に感じる事柄として▽電車など公共交通機関の利便性が低い▽さまざまなものがそろそろ複合施設がない一などと挙げ、「改善されることで伊南はさらに良い地域になるのではないかと意見。河本さんは「現状が当たり前になりすぎて改善点が分からなくなっている状態。改善点を若い子から吸い上げていくべきだ。誰かが声を上げる必要がある」と話した。

河本さん④とのトークセッションで伊南の課題について意見を述べる駒ヶ根工業高校の橋爪さん⑤



駒ヶ根JCが「SDGsパーク」

SDGsパークは地域の人が社会課題を身近な課題と捉え、課題解決へ行動を移すきっかけを作るイベントとして企画した。同JCの古田千洋理事長は「身近なことから始めようという意識を醸成できる機会になれば」と期待した。(田中まみ)